

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所協賛(事業所記入)

事業所番号	4470102296		
法人名	社会福祉法人 永生会		
事業所名	グループホーム のぞみ		
所在地	大分県 大分市 大字 常行 266ノ1		
自己評価作成日	H26年 2月 28日	評価結果市町村受理日	平成26年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.eiseikai.or.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分市大津町2-1-41
訪問調査日	平成26年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クリニックが併設しているという特色を生かし、医療との連携を密に行っている。又週2回の訪問看護により日々の利用者の体調の変化や小さな気付きも相談し体調管理に努めています。それにより入所者9名の状態を把握して頂き、どんな事でも相談できる関係作りが出来ているので、入所者、家族はもちろん職員も安心して過ごせます。

今後、入所者の高齢化に伴い、重度化、ターミナルケアも視野に入れると、益々医療との連携が重要になってきます。早期発見、早期治療に心がけ、一人々の人生を大切にしその人らしい生活をして頂けるよう努めて行きたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所の1階に併設の医療機関との連携が密に図られており、本人や家族の安心感を得られている。
- ・月1回、様々な想定のもと、防災避難訓練を行っており、非常時に備えて職員間で話し合いを重ねている。
- ・職員間で「伝達ノート」を記入しており、チームで連携を図っている。
- ・法人のオンブズマン制度を活用し、利用者の意見を聞く工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「近隣の社会資源(保育所等)を活用し普通の暮らしを支え、一人々の人生を大切にすることを基本とする」を基に「その人らしく普通の暮らしを支えながら地域社会の一員として生活する事を支援します」を理念として実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を、事務室やリビングに掲示している。 日々のケアの中で、折に触れて理念を振り返りながら共有を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児との交流、地域の行事(運動会・お祭り)等に参加している。	月2回、隣接する保育園との交流を行っている。 地域の運動会や祭りに参加したり、お神輿が事業所まで来てくれる等の交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に地域の人へ分かりやすく説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催、活動報告、現在取り組んでいる内容についても報告している。又年間で議題を決め率直な意見交換を行っている。	運営推進会議は隣接する同法人の3事業所合同で年6回開催している。事業所の取り組みや実践の報告のほかに、年間計画でテーマを決め、参加者より意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	避難訓練の時には訓練内容や方法を消防署に相談に行き指導を仰いだ。市の職員とはいつも相談できる関係作りを心がけて対応している。	市担当者は運営推進会議に参加してくれている。 質問や相談があるときは、電話や窓口に直接出向くなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で理解を深め周知徹底を行っている。 玄関の施錠は行ってないがベル等で出入りの確認を行っている。	年1回、全職員で身体拘束しないケアについて、資料を回覧し、学ぶ機会を作っている。 現在、センサーマットを使用している人が1名いる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で理解を深め常に利用者の顔(表情)、言葉遣い等に注意を払っている。		

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修等に参加し理解を深め、必要としている利用者家族に「青年後見人制度」について情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書、口頭等で十分に説明し、家族の同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	福祉サービス相談員(オンブズマン制度)を設けている。	法人のオンブズマン制度を活用し、年4回、本人の意見を聞く機会を作っている。年1回、家族会で事業所の取り組みを報告し、家族アンケートを行う等の取り組みは行っているが、家族に結果の報告を行っていない。	アンケート等で出された意見を全職員で検討し運営に反映させることを期待したい。また、家族に結果を報告し、さらに意見を出してもらえるよう積極的な取り組みを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を反映させ、質の向上に心がけている。	職員会議で、意見を出す機会を作っている。日々のケアの中での気づきがあれば、その都度、意見や提案を聞き、できるだけ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度において、個人目標の達成状況を自己評価するとともに、上司との面接により就業状況や時期の目標設定などを包括的に行う事で向上心が持てるよう職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	作業手順書に(マニュアル)基づいた介護力の向上を常に図ると共に、団体による研修会へ積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者(施設)とのネットワーク会議の交流会に参加し、意見交換や施設見学を行いサービス向上に努めている。		

事業者名:グループホームのぞみ

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時には、より多くの情報収集を行い不安の軽減に努め、又入所後もコミュニケーションを多く持ち、本人との信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時家族からの要望等に耳を傾け、面会時や電話等で情報報告を密にし、家族の不安軽減に努めた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望を第一に考え、家族の思いを踏まえた上で、最善の支援に繋げるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意分野で力を発揮し「役に立っている」と思って頂ける、場面作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に情報交換を行い、必要に応じて家族の協力を得たりしながら、共に支えていく関係作りが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用している美容院に継続的に行けるよう、支援に努めている。	利用者一人ひとりの、これまで大切にしてきたものや関係の聞き取りが充分でなく、馴染みの関係の継続支援につなげていない。	一人ひとりが、これまで大切に培ってきた関係を、全職員で把握し、関係を継続させるための支援につなげていくことに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志が仲良く、共に助け合って生活を送っていけるよう、利用者間の橋渡しに努めている。		

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族から相談があれば、必要に応じて対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係りの中で、相手の気持ちを理解する事に努めている。	日々のケアの中で、本人の思いや希望の把握に努めている。困難な場合は表情やしぐさから、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報交換にて、これまでの生活歴を知りえる限り把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人々を尊重し、その人に合った生活リズムを作っている。何が出来るかを常に考え、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聞き、モニタリング、アセスメントを持って作成している。状態変化があった時は、その都度ケアプラン追加や建て直しを行い、現状に即したケアプランを作成している。	月1回、モニタリング、評価を行っている。家族の意見、要望をききながら、職員で話し合い、3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア実施は実施表に記録し毎月評価を行っている。日々の様子や気付き、バイタル等は個別に記録し、職員間の情報共有を徹底している。勤務開始前には確認を義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的な医療の連携を図っている。それに加え、訪問介護との連携体制も出来ており、昼夜を問わず緊急時や、心身の変化、異常事態発生時にはスムーズな対応が出来、入居者の重度化を防ぐ事が出来ている。		

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	非常時の安全確保の為、近隣地域住民(自治委員・民生委員)との緊急時の体制が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向にそって、同意納得の上併設のクリニックがかかりつけ医になっている。クリニックで対応できない場合は、希望される医療に受診支援が出来ている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。医療機関との関係を築きながら、受診の前後の情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的(週2回)に訪問看護の訪問があり、日常の健康管理を行ってもらい、相談、助言をもらえる関係作りが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時医療機関に本人の情報提供をしている。 職員が見舞い、家族、施設の意向を病院に伝え早期退院の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、かかりつけ医、職員で話し合いを持ち、家族の意向を確認しながら満足して頂けるケアを行っている。	入居時に、事業所の出来ること出来ないことを説明し、重度化や終末期に向けた方針の共有を図っている。状況の変化に応じて、繰り返し話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、応急手当の研修を行っている。 緊急時には、医療、看護との連携体制を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月単独での避難訓練と、年2回高田清流苑合同の、避難訓練を利用者と共に実施している。 災害時に備え、食糧、飲料水の備蓄や消防団(防災士)とも協力体制が出来ている。	月1回、昼夜の火災や水害等、様々な想定のもと、避難訓練を行っている。 訓練後に職員で話し合い、避難方法について検討を重ねている。災害時の備蓄がある。	

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で守秘義務を徹底している。また誇りやプライバシーを損害するような言葉かけや、対応しないよう心がけ、職員間でも注意し合うようにしている。	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めるよう、気付きがあれば、その都度注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人の思いを大切にしてい、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で本人の思いを大切にしてい、柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を尊重し、近隣の美容室でカット、パーマ等を行い、清潔に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人々の力を生かしながら、職員と一緒に調理、盛り付け、片づけ等を行っている。	栄養士が作成した献立で手作りし提供している。 利用者と職員が同じ食卓を囲み、会話をしながら食事をしている。配膳や片付け、おやつ作り等、一人ひとりの力を活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは栄養士が行い、水分量は一人々の状態に合った接種量を心がけている。水分を取ろうとしない方には、嗜好品や、細目に水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け、見守り、介助等一人々の状態や力に応じて口腔ケアを行っている。 毎月夜間、義歯消毒を行っている。		

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人々の排泄パターンを把握し、その人に合った介助を行い、少しでも快適に過ごせるように支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握している。さりげない声かけや誘導を行い、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分摂取量、運動、腹部マッサージ等を行い、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人々の状態を把握し、希望に合わせゆくりと入浴できるように心がけている。	週2回の入浴となっている。入浴を嫌がる人には、タイミングを合わせて、声掛けを行い入浴してもらっている。車椅子の人もできるだけ、湯船につかれるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人々の生活習慣を基に、日中の活動に参加を促し、気持ちよく安心して眠れるように支援している。又日中、その時々状況により居室で休んでもらうこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書の内容を理解し、確実投与の為服薬チェック表を用いている。症状の変化が現れた時には、Drや看護に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人々の状態や力量に合わせた役割や、嗜好品を取り入れたおやつ作りを一緒に行ったり、歌を一緒に歌う事で、楽しみや気分転換に繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や希望に応じて散歩、買い物や、隣接している保育園や、地域の行事に出かけている。	天候の良い日には、散歩や近くの商店へ買い物に出かけている。花見や植物園、初詣などのドライブに出かけている。	

事業者名:グループホームのぞみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員がしているが、買い物や外出時に、好みの物を購入できるよう手渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との手紙のやり取りの支援や、電話等の取次で話が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるような飾り付けや、玄関、ホール、廊下に観葉植物を置き気持ちよく過ごせるように工夫している。	観葉植物やテーブルの上に花を飾り、季節を感じる工夫を行っている。 静かな環境で、ゆったりと落ち着いた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	随所にソファや椅子を置き、気の合った利用者同士が過ごせるような空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真を持ち込まれている。	家族の写真や椅子やテーブル等、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地良く過ごせるような工夫をしている。各居室にトイレを設置しているが、匂いもなく清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口に表札を付け、自分の居室を間違えないようにしている。また自分専用のクッションにて食事時の座り場所が分かるようにしている。		